

「伝え合い学び合う子ども」の育成

～質の高い学習課題の設定を通して～

新潟市立和納小学校

1 学校の概要

和納小学校は、新潟市の最南端に位置する。南は西蒲原郡弥彦村，東は燕市（吉田）に接し，西川沿いに農業を中心として発達した豊かな自然に恵まれた田園地域にある。一説には，古事記にある「和那美の水門」にあたる「和那美の里」と呼ばれており，地域の人はこの歴史を誇りとし，その伝統を大事にしている。

教育目標の「心身ともに健康で実践力のある子ども」を育てるために，学校では様々な場面で健康教育や体力づくりに力を入れている。例えば，毎朝の登校後に校庭やグラウンドを走るラン RUN 運動を行っている。冬期間は，なわとびを使用したビュンビュン運動に移行する。

また，当校の特色の一つとして，古くから続くマーチングがある。地域の祭りで披露するパレードは，地域住民に愛されていて，沿道には毎年多くの観覧者が集まっている。

2 NIE 実践のねらい

質の高い学習課題の設定を通して，「伝え合い学び合う子ども」の姿を具現することを目指す。「伝え合い学び合う子ども」の姿とは，次のとおりである。

- | |
|---|
| ①課題に対する自分の考えをもったり，自分の立場を明確にしたりする。（もつ） |
| ②自分の考えを，分かりやすく相手に伝える。（伝える） |
| ③相手の考えを聞き，自分の考えとの相異点や類似点を判断する。
（聞く・伝え合う） |
| ④根拠を明確にして賛成や反対の意見を述べ，考えを共有し，考えを再構築する。
（学び合う） |
| ⑤学習のまとめと振り返りをする。（学びを自覚する・考えを深める） |

今年度は，NIE の実践を研究主題に向けた取組の一環として位置付ける。授業場面における実践，日常的な実践，新聞に親しむための環境整備を進める中で，研究主題に迫るための新聞活用の有効性について検証を進めていくこととした。

3 本年度実践の概要

（1）授業場面での新聞活用

1人1回の公開授業を行う。教科・領域の幅を徐々に広げられるようにする。授業における新聞の位置付けについて，学習指導案に明記する。学習指導案の作成時や協議会時に「新聞は効果的に活用されたか」という視点を加える。

学年

1 学年

教科・単元名

生活科「いきもの だいすき」

授業の概要

飼育しているモルモットと触れ合う学習を通して、「もっと仲良くなりたいが、怖がらせたくない」という思いをもつ。そこで、学習課題「モルモットをこわがらせないようになかよくあそぶにはどうしたらいいかな。」を設定した。

問題を解決するために、新潟市動物ふれあいセンターの飼育員に関する新聞記事を使用した。読みやすいように加工した記事を全員で読むと、飼育員は「子どもたちが満足しても、動物の方がいやがるイベントはしたくない」という思いをもっていることが分かった。この考え方を判断基準として、今後はどのように接したらよいかを子どもたちに話し合わせ、考えを出し合った。



最後に、出し合った方法を実際に試し、自分たちが考えた方法のよさを確認し合った。

成果

- 「プロの飼育員が大切にしていること」という事実は、「モルモットを嫌がらせたくない」という子どもの意識に影響を与えた。
- 展開部分で新聞記事を活用することで、考える材料を子どもたちに与えることができた。

学年

2 学年

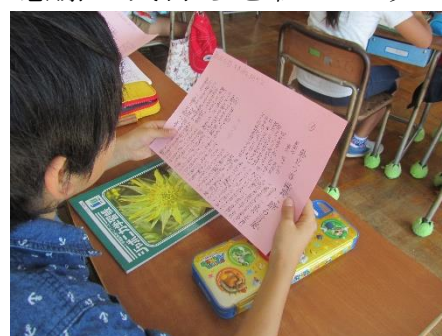
教科・単元名

国語「せつめいの文をくらべて読もう」

授業の概要

新聞の投書コーナーを紹介し、コピーを配付した。全員で音読しながら意味を確認した。3つの投書を読む中で、「ありがとう」という気持ちを伝えようとしていることが共通していると分かった。そこで、学習課題「ありがとうは、どんなことを書くといいかな。」を設定した。

3つの投書は、それぞれ誰に、どんなことに対して感謝の気持ちを伝えようとしているのかを読み取り、黒板上で整理した。それから、自分は誰にどんな感謝の気持ちを伝えたいかを考えさせ、ノートに記述させた。友達と話し合っ



て感謝する場面を考えていた子どももいた。記述したことは何人かに発表させ、板書した。

次時は、書きたい事柄を選び、実際に書く活動を行うことを確認し、振り返りを書かせた。

成果

- 読みがなが書かれていれば、低学年も新聞記事を読むことができる。
- 学習課題の中で、本時で考えることが明確に示されていれば、2年生でも新聞記事の内容を読み取ることができる。

学年

3 学年

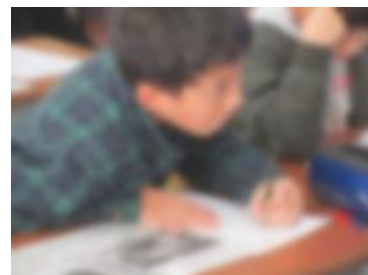
教科・単元名

総合的な学習の時間「和納たんけんたい」

授業の概要

最初に、拡大コピーした新聞記事を提示した。見出しや写真から、記事の内容を全員で読み取った。その後、記事のコピーを配付し、全員で読み進めると、昔の和納小学校では陸上競技が盛んだったことが分かった。そこで、学習課題「80年前の和納小は、どんな学校だったのか。」を設定した。

ワークシートを配付し、個人で新聞記事を読みながら、どんなことが分かったかを記述させた。数人に発表させたところ、大会で3年連続優勝したことや、裸足で走って練習したこと、優勝旗が学校に保管されていること等が分かった。実際の優勝旗を見せて、記事と現実がつながっていることを実感させた。



学習のまとめを行った後、これからどんな歴史について調べていきたいかを振り返りで記述させた。

成果

○新聞記事の提示方法は様々あり、それぞれによさがある。適切に使い分けることで、子どもの思考が深まる。

○新聞記事に掲載されている実物を見せることにより、子どもの関心をさらに高めることができる。

学年

6 学年

教科・単元名

算数「立体の体積」

授業の概要

これまで学習した体積を表す単位を確認した後、大雨についての新聞記事を提示した。記事を読むと、雨の量の単位には mm が使われていることが分かる。そこで、学習課題「降った雨の量を体積の単位で表すにはどうしたらいいかな。」を設定した。

新聞記事に書かれている雨量はどのぐらいかを計算するため、学校の敷地内に降った量に限定して計算した。大きな数字を扱うので、全員に電卓を配付した。計算して求めた雨量は、どのぐらいの量なのか想像できなかったため、プール何杯分なのかを求めることにして、プールに入る水の量も同様に算出し、比較した。



最後に、別の大雨についての新聞記事を提示し、本時で計算した雨量で発生する災害について感じさせた。

成果

○新聞を活用することで、単位の学習を身の回りのものと結び付けることができた。社会的事象と結び付けることで、量感を育てることにつながった。

学年 おおぞら松組（特別支援学級）

教科・単元名 自立活動「新聞を読もう！」

授業の概要

数日分の新聞を用意し、興味がありそうな記事を探させた。普段から将棋に興味をもっている子どもが、将棋の記事を見つけて嬉しそうにしたことから、学習課題「このしょうぎの記事から、どんなことが分かるかな。」を設定した。

次に、将棋のコラムを拡大して黒板に提示し、将棋の棋譜の意味や読み取り方について確認した。その後、棋譜を読みながら実際に駒を動かしていった。勝負の途中までしか掲載されていなかったため、翌日の新聞を読んだところ、続きが掲載されていることが分かった。

このように、毎日少しずつ棋譜が連載されることで、新聞には読む楽しみが毎日盛り込まれていることに気付いた。



成果

- この学習の後、新聞を毎日読む活動を開始した。新聞を日常的に読もうとする児童を育てることにつながった。
- 将棋のコラムを扱うことで、新聞が現実の社会と結び付いていることに気付かせることができた。

その他の授業実践一覧

学年	教科・単元名
3 年	理科「明かりをつけよう」
4 年	国語「新聞記者は何を伝えたいのかな」
6 年	保健指導（学級活動）「防げる病気？『がん』」
6 年	国語「なりたい自分に近づくために」
おおぞら竹組	生活単元学習「収穫を楽しもう」

（2）日常場面での新聞活用（NIE タイム）

毎週 1 回、NIE タイムを設定する。これまでの他校の実践を参考に、内容は各学級担任が設定する。

学年 1 学年「新聞クイズを考えよう」

活動の概要

- ・ 新聞記事の内容から、教師がクイズを作る。
- ・ 子どもたちはグループごとに答えを予想し、ホワイトボードに記述する。
- ・ 全てのグループの答えを確認した後、教師が記事を読み、答えを確認する。



成果

- ホワイトボードを使用した話し合い活動を、スムーズにできるようになった。

学年 2 学年「記事をうつしてみれば？」

活動の概要

- ・ 投書を見ながら，正確に視写をする。
- ・ 新聞記事と同じ字数のワークシートを教師が用意する。
- ・ 学習していない漢字は，×印を書いてもよい。
- ・ 数回の NIE タイムで 1 枚を完成させる。



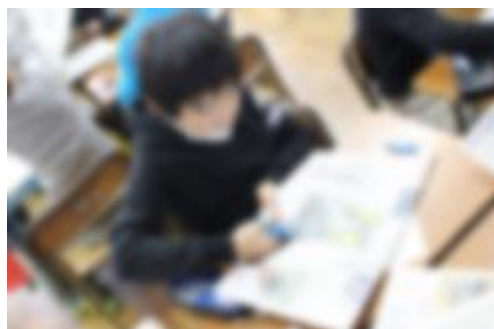
成果

○正確に視写する力，見直す力，字を丁寧に書く力が高まった。

学年 3 学年「写真で作品づくり」

活動の概要

- ・ 新聞記事の中の写真を組み合わせて，1 枚の絵を作る。
- ・ 自分が気になった写真を切り取る。
- ・ 位置を考えて，画用紙にのり付けする。
- ・ 写真の周りに模様や絵を加えて完成させる。



成果

○写真を探す過程で，様々な記事があることに気付き，新聞に親しむことができた。

学年 4 学年「見出しはなんだ？」

活動の概要

- ・ 新聞記事の見出しを考えさせる。
- ・ グループごとに，予想した見出しをホワイトボードに記述させる。
- ・ 新聞は，子どもが自宅から持参する。



成果

○本文や写真から，記者が伝えたいことを考えることができた。

学年 5 学年「クイズも作れるぞ」

活動の概要

- ・ 小学生新聞を読んで，その内容からクイズを作らせる。
- ・ 教師が用意したワークシートに記述する。
- ・ ペアやグループでクイズを出し合った後，ワークシートを教室に掲示する。



成果

○自分の力で小学生新聞を隅々まで読むことで，新聞を細かく読もうとする姿勢が育った。

学年

6 学年「新聞スクラップづくり」

活動の概要

- ・ 新聞記事のスクラップ作りをする。
- ・ 記事の脇に，気付いたことや疑問に思ったこと等を記述させる。
- ・ 新聞記事のレイアウトを利用させる。



成果

○新聞記事を使った自主学习（家庭学習）をする子どもが現れ始めた。

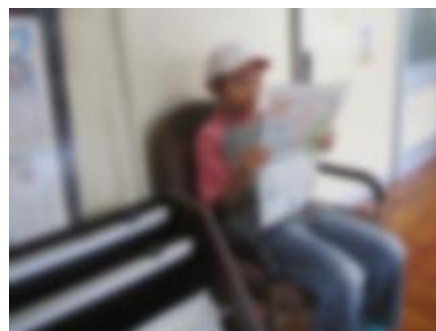
（3）新聞に親しむための環境整備

新聞閲覧コーナーを設ける。場所は児童玄関前とし，児童が興味をもてそうな記事のある新聞を自由に閲覧できるようにする。新聞は定期的に入れ替える。

また，NIE 掲示コーナーを設ける。児童会活動と関連付け，各委員会の活動内容に近い記事を基に，新聞記事の紹介活動を行う。

「新聞を読もう！」コーナー

児童玄関前に，新聞を掲示するコーナーを設置した。職員が，新聞を開いた状態で掲示することができる台を作成した。この台のよさは，子どもがいつでも読めること，たたんで片付けずにその場を離れられること，読ませたいページを開いておけること等，数多くある。また，近くにイスを設置したり，数日分のバックナンバーを置いたりした。これらの

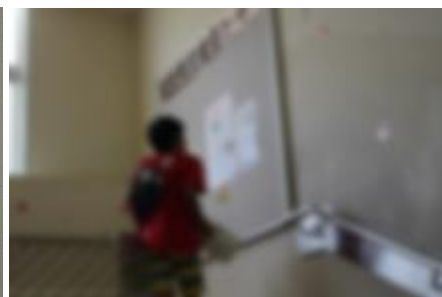


環境整備により，新聞を手にする児童が毎日見られるようになった。



「NIE 掲示」コーナー

児童会掲示板を NIE 掲示コーナーとして活用した。子どもが新聞記事を選び，担当教師と相談しながら掲示物を作成した。掲示板は，全校児童が毎日利用する階段の踊り場にあるため，多くの子どもの目を引いていた。



(4) 職員研修

NIE の実践をするにあたり，どのように推進していけばよいのかを学ぶため，新潟県 NIE アドバイザーである，新潟市立矢代田小学校教頭の 古井丸裕三様を招いて，NIE に関する研修会を行った。この研修により，新聞の活用の仕方，NIE の授業の構想の仕方，NIE で身に付く力等，NIE に関する基本的な理解を深めることができた。



4 授業における実践の詳細

(1) 学年 5 学年

(2) 教科・単元名

国語「伝記や新聞記事を読んで，自分の生き方と比べた感想文を書こう」

(3) 授業の実際

本単元は，手塚治虫の生き方を取り上げた伝記を読み，手塚の考え方や生き方と自分を比較して，読書感想文を書く学習である。本時は，教科書で扱う『手塚治虫』の学習を終え，他の人物の生き方について考える第 2 次の内容である。

本時では，ブルゾンちえみさんの生き方が掲載された新聞記事を活用した。テレビで目にする話題の芸能人を扱うことで，子どもたちの学習意欲を高めることができると考えた。また，現在も活躍している人物を教材として扱うことで，人の生き方についてより身近に考えるようになると考えた。



①児童の関心を高めるための新聞記事の活用

前時まで学習した『手塚治虫』の読書感想文を数名が紹介した。その後「先生もすごい人を，新聞で見付けました。」と前置きしてから拡大した新聞記事を提示した。その瞬間，子どもたちから「えーっ。」という驚きの声が上がった。そこで，学習課題「ブルゾンちえみのすごいところは，どんなところかな。」を設定した。



②自分の考えと理由を書く場の設定

新聞記事のコピーを一人一人に配付した。教師が記事を音読し，子どもたちはそれを聞きながら「すごいところ」を探した。その後，自分で読み直しながら，「すごいところ」に赤線を引いていった。『手塚治虫』の学習でも同じ活動を繰り返し行っていたため，すべての子が赤線を引くことができた。個人の活動後，赤線を引いたところはどこかを発表させた。すると，子どもたちが「すごいとこ

ろ」だと感じたところは全部で 5 か所ぐらいに絞られることが分かった。そこで教師は「この中から、『このすごいことのおかげで、今のブルゾンちえみがある』と思う事柄を 1 つ選んでノートに書きなさい。」と指示を出した。

③多様な考えに気付かせるための話し合いの場の設定

子どもたち一人一人が選んだ「すごいところ」を班で交流させた。子どもたちは、選んだ事柄が同じでも理由は異なっていたり、理由は似ているのに選んだ事柄が異なったりしていることに気付いた。その後、班で 1 つ「すごいところ」を選ばせ、その理由を画用紙に書かせた。画用紙を黒板に貼らせ、教師が分類し、学習のまとめを行った。



(4) 成果と課題

- 誰もが知っている人物に関する新聞記事を扱ったことは、子どもたちの学習意欲を高めることにつながった。
- 前時までの『手塚治虫』の学習と本時の学習の流れが同じであるため、新聞記事を扱うことへの戸惑いが見られなかった。また、内容的にも前時と関連させられていた。
- △子どもたちが選んだ「すごいところ」は、どれも正解である。話し合いにより一つに絞る必然性弱かった。

5 成果

- 授業場面での新聞活用の実践を通して、新聞の活用方法にはいくつかの枠組があることが明らかになった。

①新聞記事の中に問題がある。

新聞記事を紹介することで、子どもが疑問をもったり分からない部分が生じたりする。新聞記事をもとに学習課題がつくられる。

②新聞記事の中に考えるための材料がある。

学習課題があって、それを解決するための糸口やきっかけ、考えるための素材を新聞記事の中から見出す。新聞記事を用いながら問題解決を図る。

③新聞記事の中に答（学習の確認、発展問題）がある。

学習を進めて得た解やまとめが、世の中とどのように結び付いているかを確認したり考えたりするために、新聞記事を利用する。

これらの枠組を、2 年次の研究に生かしていきたい。

- 日常場面での新聞活用の取組に、一定の成果が見られた。より効果的になるように改善したり、他の方法を試したりしながら、子どもたちがもっと新聞に親しむことができる活動にしていきたい。